

# 事務事業評価シート

評価実施年度：平成28年度

上位の施策名称	施策Ⅲ-1-2 発達段階に応じた教育の振興
---------	--------------------------

## 1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長

社会教育課長 福岡 直

電話番号

0852-22-5910

事務事業の名称	しまねのふるまい推進プロジェクト事業	
目的	(1) 対象	①公民館 ②市町村（小学校区等の地域）
	(2) 意図	①親世代や親子でのふるまいに関する取組を推進する公民館に助成したりすることにより、地域におけるふるまい推進の気運醸成を図る。 ②「親学プログラム」（保護者に親としての役割や子どもとの関わり方の気づきを促す学習支援プログラム）や親学ファシリテーター（親学プログラムの進行役）を活用して保護者対象の研修会を行う市町村の取組を支援する。
事業概要	①親世代をはじめとする大人のふるまいの意識を高め、それらを地域全体に広げるために公民館ふるまい推進事業を実施する公民館に対し、活動費を助成する。 ②各市町村がふるまいの定着や家庭教育支援に関する学習会において、親学プログラムを実施する。	

## 2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名 ふるまい推進に関わる学習活動が実施される公民館数	目標値		30.0	30.0	30.0	30.0	箇所数
		取組目標値						
	式・定義 学習活動実施公民館数 30箇所	実績値	30.0					
		達成率	—	—	—	—	—	%
2	指標名 親学プログラムを活用した研修会の開催数	目標値		190.0	190.0	190.0	190.0	回数
		取組目標値						
	式・定義 19市町村×10回=190回	実績値	235.0					
		達成率	—	—	—	—	—	%

## 3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費 (b) (千円)	1,554	1,378
うち一般財源 (千円)	1,554	1,378

## 4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

## 5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

①公民館等において、ふるまい推進に関わる取組が行われている。
②親学プログラムを活用した研修会を235回実施し、6,266名の保護者等に学習機会の提供をし、親学プログラムを活用した家庭教育支援は普及してきた。

## 6. 成果があったこと（改善されたこと）

①公民館等を中心とした「ふるまい推進」につながる子どもや大人を対象とした様々な学習活動が実施され、それを支援した。また、その取組の成果を冊子にして配布し、「ふるまいの大切さ」を多くの関係者に伝えることができた。
②市町村で行われる親学プログラムを活用した研修会等の開催回数、参加者数が増えた。また、新プログラム「親学プログラム2」が完成し、それを進めるファシリテーターを養成して、試行的に研修会等を開催することができた。

## 7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

<p>①困っている「状況」</p> <p>①公民館等が行っている取組の中にふるまいの視点が明確でないものがあり、「ふるまいの大切さ」が地域に広がっていかない取組がみられる。</p> <p>②市町村によって親学プログラムを活用した研修会等の取組状況に差がある。また、親学ファシリテーターの意識や力量に差がある。</p>
<p>②困っている状況が発生している「原因」</p> <p>①事業を企画、実施する市町村の担当職員や公民館等の職員に事業の趣旨、目的等が十分に伝わっていない状況がある。</p> <p>②市町村によって、親学プログラムを活用した研修会等を開催する保育所、学校、PTA等への働きかけが少ないところがある。また、親学ファシリテーターとしてのファシリテート回数を十分にこなせない方がいる。</p>
<p>③原因を解消するための「課題」</p> <p>①市町村の担当職員や公民館等職員に事業の趣旨、目的等を伝える必要がある。</p> <p>②市町村に対して、親学プログラムの活用を働き掛けていく必要がある。親学ファシリテーターの意識や力量を高める必要がある。</p>

## 8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

①要項を見直したり、事業説明を行ったりするなどして、市町村の担当者、公民館等職員に事業の趣旨、目的等を伝え、それに沿った事業を実施してもらうように働きかける。
②新プログラム「親学プログラム2」の普及・啓発とともにプログラムの活用を市町村に対して働きかけをしていく。また、親学ファシリテーターのフォローアップ研修の実施や、ファシリテーター同士のつながりがもてるように市町村を支援し、親学プログラムの普及を図る。

・課（室）内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

・上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

## 9. 追加評価（任意記載）

--